

ジェットポンプ式サンドバイパスシステム(福田漁港・浅羽海岸) 国土交通省



■局所的な砂移動のバランスを調整するための輸送(サンドバイパス)

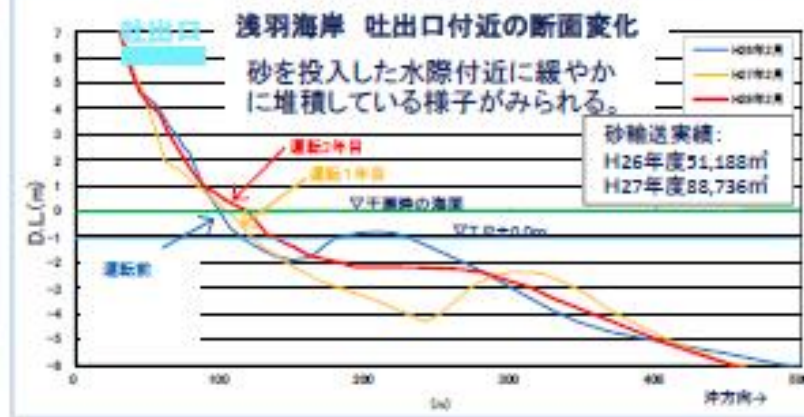
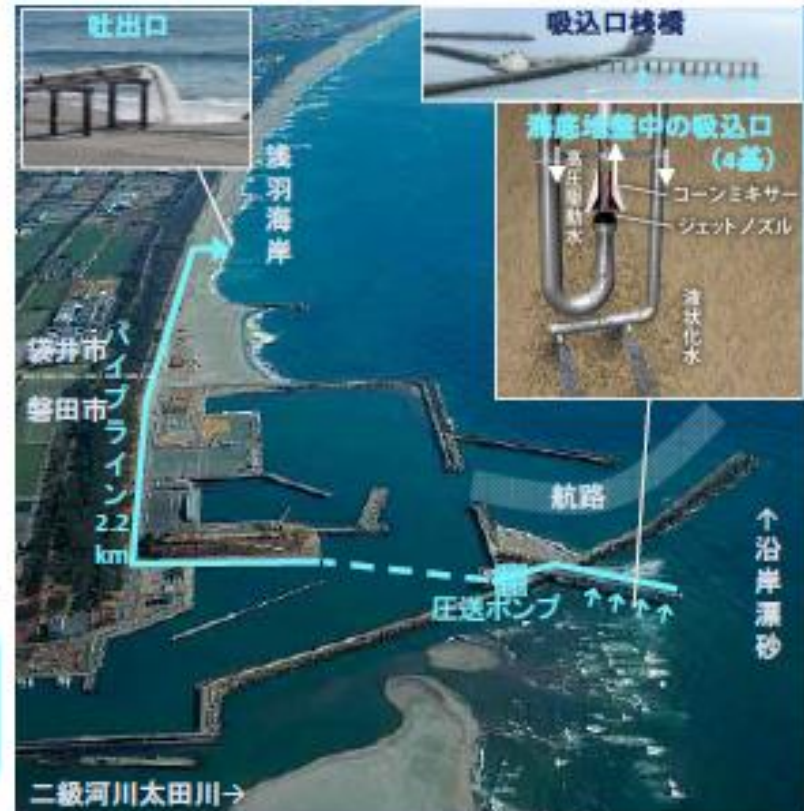
- ・防波堤付近に堆積し、漁船の航路へ回り込む砂を手前で採取します。
- ・浅羽海岸へ砂浜の現状維持に必要な年間8万立方メートル(ダンプ約16,000台分)を投入します。

■有識者による検証委員会(平成28年6月30日とりまとめ概要)

国内初の「固定設備によるパイプライン輸送方式サンドバイパスシステム」を運用するにあたり、以下の点を確認しました。

- ①地形変化予測に基づき、年間計画移動量8万立方メートルを基本とする。
- ②現状の設備にて、年間計画移動量の輸送を実証した。
- ③シラス漁及びアカウミガメへの影響に注視しつつ、通年運転を行う。
- ④効率的な運用のため、吸入口の改良や設置深さの調整を行う。
- ⑤効果・影響を把握するため、地形変化及び生物環境調査を継続する。

福田漁港 漁船数138隻、陸揚量1,757t、陸揚金額約8.5億円(平成26年)



出典: 静岡県袋井土木事務所HPより抜粋

ジェットポンプ式サンドバイパスシステム工法の仕組み



栈橋は、福田漁港西防波堤から沖に向かって設置されています。栈橋にはジェットポンプを取り付け、海底から土砂を採取します。

ジェットポンプの仕組み



拡大

- ①液状化水で周辺の土砂を攪拌し、緩める。
- ②高圧駆動水を上向きに噴射し、緩めた土砂を吸い上げる。
- ③排砂管を通して、土砂を浅羽海岸へ輸送

